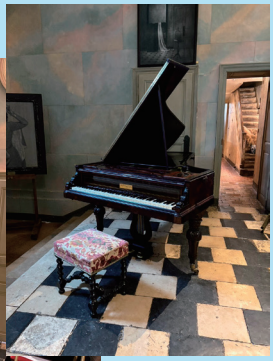
第5回ノアンフェスティバルショパンインジャパンピアノコンクールショパンナイト賞 益田美音さん
受賞者体験レポート～ノアンフェスティバルショパン 2026 年 10 月編～

10 月 16 日、ノアンにあるジョルジュ・サンドの館にて、コンサートをさせていただきました。
当日は、ショパンのピアノソナタ第 2 番「葬送」を中心に、ノクターン作品 48 より第 1 番、第 2 番、バラード第 3 番を演奏し、アンコールにはマズルカ作品 59 より第 1 番を演奏いたしました。ショパンの命日を偲ぶコンサートということもあり、葬送を思わせる作品や、実際にジョルジュ・サンドの館で書かれた作品など、いずれもノアンにゆかりのあるとされている作品を選びました。

演奏させていただいた当時のプレイエルは想像以上に繊細で、弱音のコントロールや、限られた強弱の幅の中で多彩な表情を引き出すことは決して容易ではありませんでした。一方で、普段弾いているモダンピアノとはまた異なる化学反応に触れ、この楽器が持つ響きの可能性を探りながら、その魅力を最大限に引き出そうと試行錯誤する中で、思いがけない響きに出会うたびに心が躍りました。ピアノから生まれる音は驚くほど優しく、長い歴史を刻んできた楽器ならではの深みのある音色が印象的でした。ショパンが人生の多くの時間を過ごしたこの地で、彼がこの地で書いた作品を演奏できたことは、私にとって何にも代え難い宝物です。彼は当時どのような想いを抱き、プレイエルでどのような音楽を表現しようとしていたのだろうか。そのようなことに思いを巡らせながら、より身近にショパンを感じて演奏することができました。

また、演奏会の前には、イヴ・アンリ先生にジョルジュ・サンドの館をご案内いただきました。サンドの部屋には、東洋を感じさせる家具や雑貨も置かれていました。それらがショパンやサンドと直接関わりのあったものなのかは分かりませんが、実際に館を訪れたからこそ目にすることのできた思いがけない発見でした。

演奏会に限らず、ノアンで過ごした時間は忘れられないものとなりました。ノアンは空気が澄み渡り、辺りには牛や羊の姿が見られ、ピアノを弾いていると鳥のさえずりが聞こえてくるような、のどかで美しい土地でした。前日と当日には、本番で使用するものとは別のプレイエルでも練習をさせていただきました。夜、練習を終えて建物の外に出ると、空には東京では目にすることのないほど多くの星が広がっていました。その光景は、ノアンで過ごした時間の中でも特に心に残っています。また、初めての海外での演奏ということもあり、日本を発つ前から不安もありましたが、現地で迎えてくださった皆さまも温かい方ばかりで、終演後にも多くの方がお声をかけてくださいました。



ノアン・フェスティバルの主宰者でもあるイヴ・アンリ先生、コンクールの期間から多くのサポートをしてくださったベヒシュタイン・ジャパンの皆さまをはじめ、日頃からご指導くださる先生方、そして支えてくれた家族や友人には、感謝の気持ちでいっぱいです。このような特別な経験をさせていただけたこと、心より感謝しております。

これからも、作曲家と作品に時を超えて出会える奇跡に感謝しながら、真摯に音楽と向き合っていきたいと思います。

第6回ノアンフェスティバルショパンインジャパンピアノコンクール エントリー受付中
予選締切2026年12月13日(日) / 本選　2027年4月23日(金)～25日(日)
お問合せ:competition@bechstein.co.jp
nohant FESTIVAL Chopin Un romantisme nature
C.BECHSTEIN JAPAN